

# はぐくむ

seikatsu@asahi.com

土曜掲載

## 赤ちゃんが喜ぶ絵本って？

### 研究者と実験・専門家の助言いかし開発

赤ちゃんの脳や視覚の研究をいかした絵本が生まれていま  
す。赤ちゃんの好みの絵本がわからない、読み聞かせても興味  
を持ってくれない……。親たちのそんな悩みを解決する助けに  
なるかもかもしれません。  
(野村杏実)

## 親と逆くすんだ色に反応

「なにがでるかな？」  
クマの見習手品師・うるしー  
が、帽子の中からバナナや三輪  
車、ゾウなどを次々と取り出して  
いく。

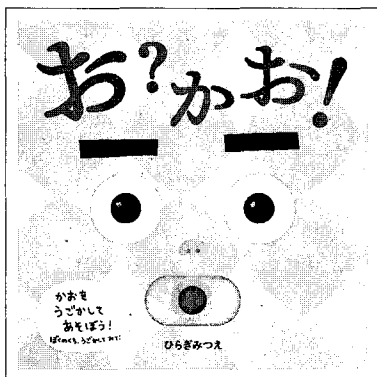
赤ちゃんのコミュニケーション  
や認知能力の発達などを研究しよ  
うと、東京大に2000年にでき  
た研究室「赤ちゃんラボ」が、出  
版社デイスカヴァー・トウエンテ  
イワン（東京）と共同で作った絵  
本「うるしー」の一場面だ。

2014年、「赤ちゃんが本当  
に好きな絵本を作りたい」とプロ  
ジェクトチームが発足。8〜13カ  
月の赤ちゃん18人と親たちに、画  
面に同時に映した複数の絵を見て  
もらい、どの絵を長く見つめるか  
を調べる実験をした。

4人のイラストレーターが描い  
た4種類の手品師のキャラクター  
を赤ちゃんに見せ、「うるしー」  
という音を流した時の視線の動き  
を追った。その結果、多くの親が  
赤など鮮やかな色を使ったキャラ



「うるしー」



「お?かお!」

クターを「うるしー」だと思っ  
たのに対し、赤ちゃんはくすんだ青  
のクマのキャラクターを選んだ。  
赤ちゃんラボの関一夫教授（発  
達認知神経科学）は、「赤ちゃん  
は原色が好きだと言われている  
が、油絵のくすんだ色を好んだの

## 弱い視力コントラストに興味

ほるぷ出版（東京）の赤ちゃん  
向けしつけ絵本シリーズは、16年  
11月から計9冊が出版され、計40  
万部が売れた。

売り上げの約3分の1を占める  
人気作が「お?かお!」。ページ  
全体が顔になっていて、丸い穴に  
指を入れると、口や目玉が動かせ  
る仕組みだ。初版6千部が1カ月  
ほどで売れた。編集者が、赤ちゃ  
んの脳の発達などを研究している  
山口真美・中央大教授（認知心理

学）に本を見てもらったところ、  
赤ちゃんが認識しやすい要素を備

は意外だ。赤ちゃんが実際に参加  
した実験の結果は、絵本だけでな  
く、服やおもちゃの制作にも応用  
できる可能性がある」と話す。  
出版社内では、従来の赤ちゃん  
向け絵本と違う色合いに、「本当  
に売れるのか」と懸念の声もあっ  
たが、実験の結果を生かすことに  
こだわったという。「うるしー」  
のほか、赤ちゃんの注目を最も集  
めた目玉のような絵を使った「も  
いもい」、言葉のイメージから絵  
を選んでもらった「モイモイとキ  
ーリー」の3冊を昨年7月に出版。  
SNSなどで話題になり、シ  
リーズ累計29万部が売れた。

えていたことがわかった。

山口教授によると、生まれたた  
かりの赤ちゃんの視力は0.03ほ  
ど。生後半年でも0.2ほどしか  
ないため、はっきりした色や太  
い線、対照性があるものでないと見  
えにくいという。「『お?かお  
!』の場合、赤ちゃんが好きな顔  
が動くことや、白目と黒目のコン  
トラストなどが興味をひきつけて  
いるのでは」と分析する。

ほるぷ出版では、山口教授の助  
言を生かして、コントラストをは  
っきりさせることなどを意識して  
新作を制作中だという。

さらに山口教授は、赤ちゃんが  
見えやすい絵本を選ぶことは発達  
につながると指摘する。「親は自  
分が好きだった絵本などを選びが  
ちだが、人間の記憶は3歳くらい  
までしかさかのぼってたどれな  
い。絵本売り場で、赤ちゃんがど  
の本に興味を示すかを観察して  
みるのもいいでしょう」と話す。

2018.10.20  
朝日新聞土曜版  
34P 生活欄